

成果報告書

[協働研究事業名]

I T技術を活用したいじめの
早期発見の仕組みづくりの研究

[提出日]

2024年2月15日

[協働研究事業団体名]

一般社団法人ゼロはら

目次

[1] 協働研究事業の概要・目的	．．．	3P
[2] 申請団体のプロフィール	．．．	4P
[3] 協働研究事業の参加団体のプロフィール	．．．	5P
[4] 協働研究事業の期間	．．．	5P
[5] 協働研究事業の背景	．．．	6P
[6] 協働研究事業の詳細	．．．	7P
[7] 実験結果	．．．	8P
[8] 実験の考察	．．．	20P
[9] 今後の計画	．．．	21P
[10]その他	．．．	21P

[1] 協同研究事業の概要・目的

- ・いじめの認知件数を上げ、早期に取り組む契機をつくる
- ・教育現場と地域が連携し、子どもの健全育成を見守る環境をつくる
- ・いじめ被害者が必要な情報にアクセスできるよう、web上の情報整理をおこなう

協働研究事業申請時の概要・目的

平成 18 年度分の「問題行動等調査」（正式名称は「児童生徒の問題行動 等生徒指導上の諸問題に関する調査」）から、いじめの件数の呼称は「発生件数」ではなく「認知件数」に改められ、併せていじめの定義（判断基準）についても大きく変わりました。国立教育政策研究所の「生徒指導リーフ」のも、『単に「数字が多いのは問題」「数字が少なければよい」等と考えるのではなく、「数字の多寡にかかわらず、解消率が高いことが重要」「解消率が高いなら、数が多いのはむしろ積極的に取り組んでいる証拠」と考えることを求める」と明言されています。「いじめの認知件数を上げ、早期に取り組む契機をつくる」ということは、国の方針にも適うものであり、本研究事業では、これを目的とします。

また、職場でのパワハラに代表されるように成人年代に対してのハラスメントも社会的問題となっており、子どもに限らず全年齢でのいじめ（ハラスメント）もこの場合の「いじめ」に含むものとします。

中間報告会で頂いた意見等

- ・どのようないじめがあるのか実態調査をしてはどうか。
- ・いじめにも種類・種別があるのではないか。対象を絞った方が良い。

中間報告会を経て修正・追加した事業目的

- ・主に三鷹市におけるいじめ（ハラスメント）の実情についての調査
- ・市内の各団体・企業法人におけるいじめ（ハラスメント）についての取組みの調査
- ・市内の各団体・企業法人との連携できる取組みはないかの意識調査

[2] 申請団体のプロフィール

一般社団法人ゼロはら
<p>[主な事業内容]</p> <p>(定款より抜粋)</p> <p>当法人は、あらゆるいじめ、ハラスメントの根絶及びいじめを抑制することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">1. あらゆるいじめ、ハラスメントの早期発見と、その注意喚起のための活動2. あらゆるいじめ、ハラスメントの抑制に係る、セミナー及び講演会の開催3. あらゆるいじめ、ハラスメントに係る、教育と啓発事業4. あらゆるいじめ、ハラスメント被害者に対する支援事業5. その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業
<p>[団体紹介]</p> <p>設立準備の期間を経て、いじめの抑制することを目的に 2022 年 12 月に法人設立いたしました。</p> <p>はじめはシステム開発を仕事としている数名が個人的に集まって、基本的なシステムを組んだのが出発点になります。そこに地域のボランティア団体（青年会議所・ライオンズクラブ他）に所属している人や、地域で様々な活動をしている人、広告会社の経営者など、様々な人物が集まり、個人的に出資することで団体を設立しました。</p> <p>地域・社会への貢献のひとつとして最も重要なものとして「子どもの健全育成」があります。それには、いじめに向き合い、取り組む必要があります。</p> <p>発想の出発点としては子どものいじめがありましたが、様々な方とお話しする過程で大人のいじめ（ハラスメント）も重要な社会課題と気付くことができました。今ではあらゆるいじめを対象に活動を行っています。</p> <p>個人的にできるボランティア活動には限界がありますが、団体として地域や行政と密接に連携し、いじめのない明るい豊かな社会の実現を目指し活動を展開してまいります。</p>

[3] 協働研究事業の参加団体プロフィール

	団体名	主な役割
1	d-free	基本システムの構築 運営・管理 システム・ユーザーインターフェースに ついてのコンサルティング 広報に係るウェブサイト、印刷物の制 作。
2	株式会社まんが de ムービー	広告についてコンサルティング等
3	株式会社鍋久	広告・デザインについてコンサルティ ング等

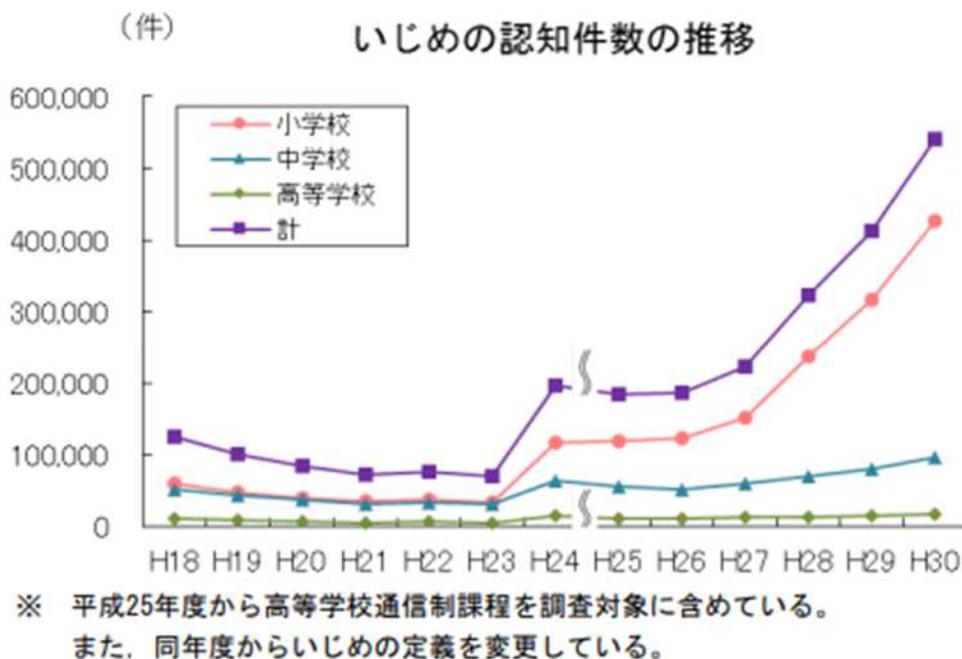
[4] 協働研究事業の期間

2023年6月～2024年2月

- (1) システム改修検討
- (2) システム改修
- (3) ワークショップ開催 (1回目)
- (4) ワークショップ開催 (2回目)
- (5) いじめ (ハラスメント) に関するウェブ上での意識調査の実施

[5] 協働研究事業の背景

<p>背景</p> <p>(社会的背景)</p> <p>平成 18 年度分の「問題行動等調査」(正式名称は「児童生徒の問題行動 等生徒指導上の諸問題に関する調査」) から、いじめの件数の呼称は「発生件数」ではなく「認知件数」に改められ、併せていじめの定義 (判断基準) についても大きく変わりました。</p> <p>国立教育政策研究所の「生徒指導リーフ」のも、『単に「数字が多いのは問題」「数字が少なければよい」等と考えるのではなく、「数字の多寡にかかわらず、解消率が高いことが重要」「解消率が高いなら、数が多いのはむしろ積極的に取り組んでいる証拠」と考えることを求める』と明言されています。</p> <p>地域的な特性として、三鷹市の小中学校には全校児童・生徒にタブレットが配布され、より多くの児童・生徒が容易に web へアクセス出来るようになりました。</p> <p>(技術的背景)</p> <p>地図アプリとその周辺アプリが容易にカスタムすることが可能になり、情報を地図上に (より分かりやすく) 表示することが出来るようになりました。</p> <p>これにより可視化された情報 (いじめの件数など) を提供することが出来ます。</p>
--



参考画像

[6] 協働研究事業の詳細

[協働研究事業申請時の計画]

○全体

いじめの兆候について、IT技術を用いて可視化することで事業目的を達成します。緊急事態（いじめの発生）があった場合に、どこに連絡するのか等、システム全体の構成やデザインを、ワークショップを通じて検討、精査します。また、ワークショップでは同時に三鷹市におけるいじめの実態についても調査し、どのような方法が最もいじめの認知件数を上げることが出来るかを調査します。

○ワークショップの開催

計2回のワークショップを開催し、システムのデザイン性や操作性を向上します。また、三鷹市におけるいじめの実態を調査し、それにあつた対策を検討します。

<構成>

1回目 大学生を中心にしたワークショップ

2回目 子育て世代（30代～40代中心）としたワークショップ

<内容>

5人～6人1組で、KJ法を用いたワークショップを行います。

<中間報告での意見を受けて計画の変更>

※1回目のワークショップは申請時の計画を基に開催。2回目のワークショップから内容を修正

[2回目のワークショップで修正・変更した内容]

○ワークショップの開催

いじめの種別の調査や、地域での特性や実態についてヒアリングを行う。

○実態調査

三鷹市近隣のボランティア団体や企業・法人に対していじめについてどのような取り組みをしているのか調査を行う。

[7] 実験結果

(1) 第1回 ワークショップ

<概要>

事業名：考えようイジメのこと 第1回ワークショップ

開催日時：2023年10月22日(日)14時00分～16時00分(受付開始13時30分)

開催場所：杏林大学 井の頭キャンパス F棟211国際交流プラザ

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀5丁目4-1

参加人数：16名

<内容>

- ・主催者挨拶
- ・趣旨説明(情報提供)
- ・ワークショップ 設問1：「イジメ」って何？
設問2：イジメに対して、わたしたちが出来ること
→ 各設問事にチーム発表
- ・まとめ

設問1：「イジメ」って何？

チーム1

- ・多数によるいやがらせ
- ・強者から弱者への直接的ないやがらせ
- ・ジェンダー問題

チーム2

- ・皆が認め合えない
- ・加害内容より被害者の心の傷が大きい
- ・解決策はあるはず

(まとめ)

個人により(いじめに対しての)解釈がことなる。

話していくうち抽象論に流れていき、まとめとしても具体論を得ることが出来なかった。



設問2：いじめに対して、私たちができること

チーム1

- ・コミュニケーション機会の向上
- ・スキーム作り
- ・認知のブランディング

チーム2

- ・見える化
- ・ペナルティー
- ・社会問題として解決する

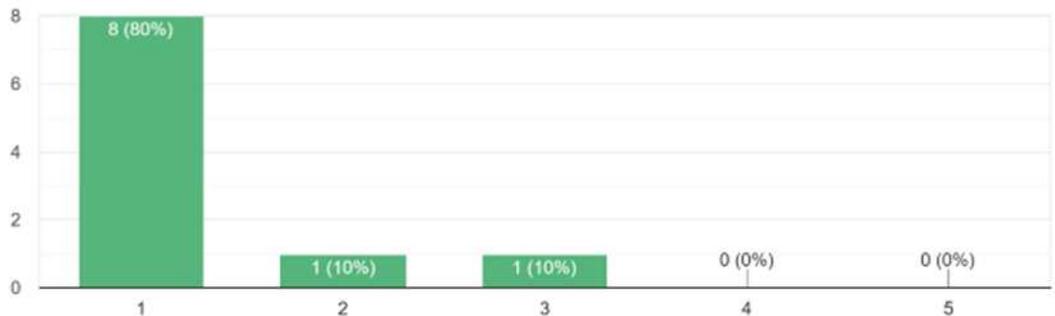
(まとめ)

極端な意見も出たが、「コミュニケーションの重要性」「見える化」というところが目立つ結果だった。



本日のワークショップに参加してみて、いかがでしたでしょうか？

10件の回答



(5段階) 1非常に良かった (とても学びがあった) ~ 5良くなかった (学びが無かった)

その理由をお聞かせください。

9件の回答

問題提起から学習、解決策の検討まで出来て良かったです。

イジメを考えるいいきっかけになったから、

いじめについて地域で考える、良い機会になったと思います。

ハラスメントに関する知識の向上や、情報の整理ができた。

わかりやすく、自分にはない発想も多く知ることができました。

良くも悪くも一般的で曖昧な内容

いろいろな前向きな意見がきけた。

ワークショップというのが良かった。いろんな方の意見が聞ける良いやり方だと思った。

(その他の意見)

イジメについて、何かご意見あればお聞かせください。

9 件の回答

- ・ 発達障害等、先天的な違いについて
- ・ 理解が深まるといい。
- ・ 撲滅しましょう！
- ・ イジメが隠されないミエルカがやはり大事だと思う。
- ・ 大人たちがいきいきと、ちゃんとしていることが大事かなと思いました。
- ・ 個人で出来ることはほぼ無いと考えるが、今日のワークショップで、みんなのできるかもしれないと感じた。発生件数の軽減はできなくても、軽度にするところはできると思います。
- ・ 減らす、撲滅する努力は怠ってはならず、継続的に取り組んでいくことが重要かと思いました。
- ・ イジメという言葉自体が不適切 犯罪行為や故意の中傷などを、適法範囲内の行為と混同している
- ・ 個性を認めるあうことをみんなで考えましょう。
- ・ 無くすのは難しいですが、取り組んでいくべき問題です

(2) 第2回ワークショップ

<概要>

事業名：考えよう！イジメのこと ～地域の団体様・事業者様と共に～

開催日時：2024年2月10日（土） 14時00分開会～15時30分閉会

（受付開始13時30分）

場所：三鷹駅前コミュニティセンター 3階会議室

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3丁目13-10

参加人数：17人 ※当日参加者

アンケート回答数：25件

<内容>

- ・ 主催者挨拶
- ・ 趣旨説明（情報提供）

・ワークショップ

設問1：これまで（団体・事業者として）関わってきた青少年事業

設問2：今後いじめに対して、（団体・事業者として）何ができるか？

→ 各設問事にチーム発表

・まとめ

設問1：これまで（団体・事業者として）関わってきた青少年事業や手法
継続的なものと単発的なものを軸としてまとめる

チームA

<継続性のある事業や手法>

【事業】

わんぱく相撲、わんぱく野球教室、Mishop フェスティバル、わんぱくスポーツ、
薬物乱用防止、小学校対象の防災教室、小学校対象の学年を超えたチーム運営+ゲ
ームイベント、世代を超えて懇親会、一緒に旅行、ちびっこ祭、もちつき、商工祭
屋台出店、会社感謝祭、子ども食堂、給食提供

【手法】

目線を下げて対応する、夢を語る、恥の克服手法、自信を伸ばす教育、子どもの興
味へのサポート、地域の子どもの集まる場所を提供、

<中期的な事業や手法>

【事業】

クライミング体験、民間救急車見学会、いじめ防止ワークショップ、サッカー教室、

【手法】

いじめが起こる・起こらない環境を考える、いじめの心のメカニズムを知る、現行
教育とのいじめの関係性を考える

<単発的な事業や手法>

【事業】

セミナー・講演会、職業体験、小学校・中学校見学、音楽祭の開催、農業体験

【手法】

子どもと一緒に遊ぶ、自分の経験を話す

チームB

<継続性のある事業や手法>

【事業】

MISHOP スキーツアー、MISHOP の世界の音楽を楽しもう、防災キャンプ、矢吹町の
交流事業、わんぱくスポーツ、わんぱく相撲、もちつき会、小学校の屋上での天体
観測、星空観賞会、矢吹町にキャンプ

【手法】

ありがとうポイントの導入、ロボットを教室において感情の診断

<中期的な事業や手法>

【事業】

子ども食堂を学生と一緒に、小学校対抗のスポーツ大会、

【手法】

一緒に農業する場所の提供

<単発的な事業や手法>

【事業】

バザー・おもちゃ支援会、子ども支援に寄付、チャリティーイベント、子どもの貧困対策

【手法】

三鷹の良いところをめぐる、児童施設・テーマパークチケットプレゼント

(まとめ)

各団体、事業者ともに青少年との事業は多く行われている。継続している事業も多く行われており、子どもたちとの接触回数を持てる地域団体が多く存在している。課題解決型の事業よりも、子どもが楽しむイベント的な要素の事業が多く散見されている。

手法に関しては願望や今後の展望も含まれているが、多くが今後も子どもたちと関係性を継続していきたいと考えており、また、子どもたちの心理的な要素に関わりを持っていきたいという手法が多く散見される。



設問2：今後イジメに対して、(団体・事業者として)何ができるか？

設問1の内容(継続性)を踏まえて

<継続性のあるいじめ対策事業>

子ども食堂の継続・支援、休日・休暇期間中の給食提供

<中期的ないじめ対策事業>

いじめの心理研究、愛の教育、民生委員の見直し、教育現場へのアプローチ、目安

箱、いじめアンケート（職場のパワハラ含む）

<単発的ないじめ対策事業>

職業体験にからめて職場や学校のいじめにふれる、今やっている事業の中でいじめに対してふれる、価値観の多様性を教える、いじめについて定期的に大人に教育する、各イベントでの相談会を設ける、いじめに対するセミナー・講演会、学校現場の見学会を開く

（まとめ）

各団体・事業者が行っている事業において相談窓口を作るなど、折に触れて、「いじめ対策」を意識付けしていくという意見が出ていた。地域で見守ることと、子どもの逃げ場所の確保が重要という考えが出た。また、学校教育現場だけに押し付けるのではなく、いじめにあっている子どもが浮き彫りになる仕組みが重要という意見が出ている。



<本ワークショップを通じた考察>

本ワークショップにおいて、各団体の青少年に対する考え方と対応から、それぞれの団体において、いじめに対して何ができるのかを考えて頂いた。教育現場だけでなく、大人たちへの教育という観点が重要であることに気づいて頂いたことは、一定の価値が生まれたと思われる。今後の各団体の様々な青少年事業を構築する際にいじめに対して、何か少しでも貢献できるように、動いてもらえるきっかけとなったのではないかと。

<補足>

事前の協力依頼などを通じ、団体としてアンケートにご回答頂いた。

【団体として正式にご回答頂いた団体名】 敬称略

- ・東京三鷹ライオンズクラブ
- ・三鷹青年会議所
- ・三鷹商工会青年部

【出席いただいた参加者の属性】敬称略

- ・東京三鷹ライオンズクラブ
- ・三鷹青年会議所
- ・三鷹商工会青年部
- ・三鷹市政策提言会議
- ・三鷹市倫理法人会
- ・三鷹商工会（理事）
- ・おやじの会（学校名匿名）

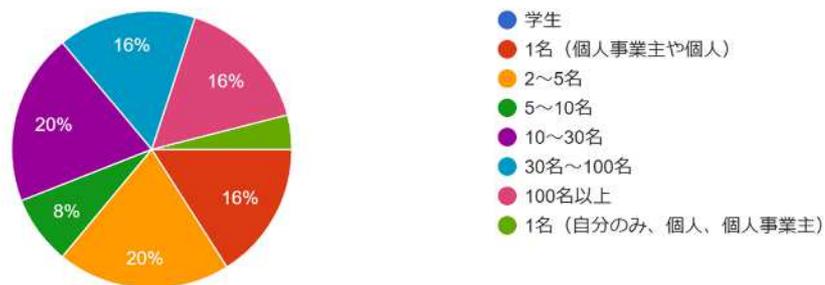
※会を代表しての参加でない方も含みます。

事前アンケート

団体の規模

個人または、団体・事業所の人数規模について教えてください。

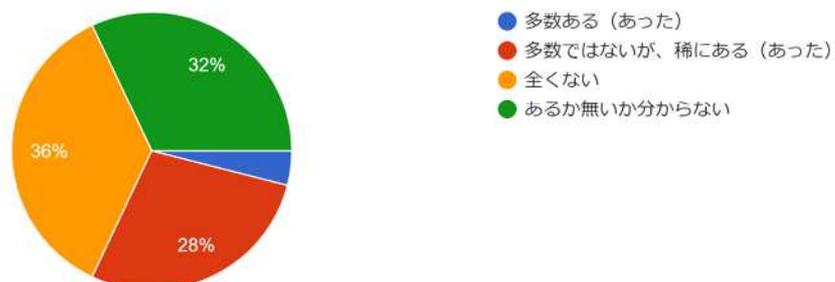
25件の回答



地域事業者、団体様の人数規模は1～10名程度が半数の小規模な団体からの回答を得ています。小規模事業者が多い三鷹の地域特性が出ているアンケート回答者といえます。

あなたの団体・事業所、もしくは所属している学校でいじめ（ハラスメント）の事例はありますか？

25件の回答



共有できる具体例があれば記載してください。

5 件の回答

特にありませんでした。

経営者層を中心に 40 代以上が中心の団体なのでいじめということは中々起こらない。

家族経営の為いじめは無い

かなり過去にはなるが仕事出来る者、出来ない者での差別、また出来ない者に対しては仕事を与えられずと言う事があった。

多数の児童を引率するボランティア事業において、児童間でのトラブルに気づけない時もあったかもしれない。

「あるか無いか分からない」と回答された方へ質問です。

いじめ（ハラスメント）の実態についてどのように考えていますか？

11 件の回答



<注意>

円グラフ内、空欄（黄色部）は「その他」を選択し、自由回答欄に何も入力しなかった状態。「全くないと答えたので該当しませんが、調査を行って実態を知っておくべきと考えます。」の回答も「その他」を選択し入力したものの。

職場・団体などでのいじめの調査は必要と考えている方が全体の 6 割程度にあたり、ハラスメントに関する関心は多くの事業者、団体においても比較的高い水準にあると考えられる。ただし、25%以上が感知する必要はないと感じている点も、考慮すべきところである。

実態調査について

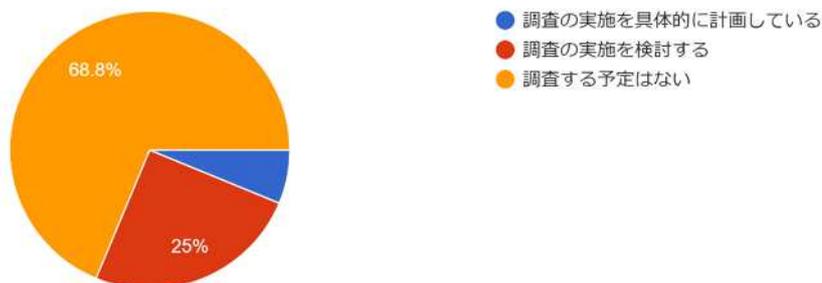
あなたの団体・事業所でいじめ（ハラスメント）について、定期的な調査を行っていますか？
25 件の回答



ハラスメントに対する一定の関心はあるものの、60%を超える事業者、団体においては調査を行ったことがないとの回答が出た。いじめやハラスメントに対して、どのような対応をするべきなのか、具体的な調査方法や解決手段の知識が不足していると考えられる。

「調査を行ったことは無い」と回答された方に質問です。

今後調査を行う予定はありますか？
16 件の回答



調査を行ったことのない事業者・団体においては、調査の実施予定なしの回答が70%近くを占めた。実施を計画しているのはほとんどなく、現状としては、何の計画もない状態がほとんどであることが分かった。

その理由をお聞かせください

13 件の回答

コミュニケーションが取れているため必要ない

会社の人数が少なすぎて、ハラスメントの実態が全くないため

個人事業主のため、いじめが発生しない

一人法人のため不要

原則無いことと、風通しの良い団体のため。

会員数が増えてきたことと、かつては男性ばかりだったが、女性も増えてきたので意識調査は必要

家族経営の為

所属人員が少数かつ家族であるため

この問題に関して、見直すことはないと判断。

いじめが無いため為

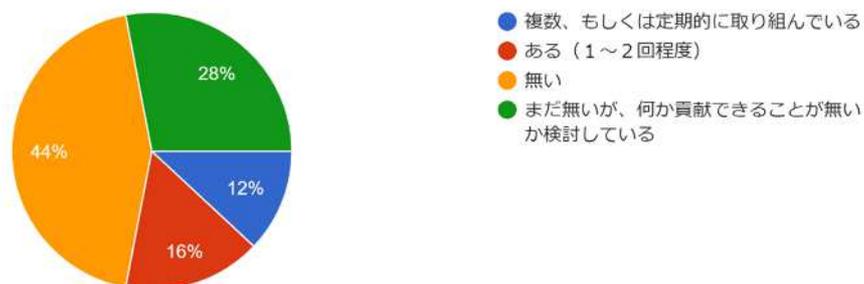
調査してみないとわからないから

そう言ったいじめに対しての認識がない。

あくまでも予定として現実化しているものが、現時点ではないという意味です。

学校や教育現場でのいじめについて質問です。

学校や教育現場でのいじめについて、あなたの団...組んでいる（貢献している）ことはありますか？
25 件の回答



70%の事業者・団体が学校でのいじめに対して、取り組んでいることがない、またはまだ無いとの回答。地域として、いじめに取り組んでいるとは言えない状況であることが明確にわかる。

その具体例について教えてください。

4 件の回答

3 ヶ月おきにアンケートによるヒアリングを行なっている

いじめとは直接関係ないかもしれないが、定期的に小中学校にはセミナーなどを開催している。

セミナーを受けている。

研修会

[8] 実験の考察

(1) 事前アンケート調査に関する考察

事前アンケートの結果より、職場・団体内でのハラスメントに対する調査の不足は顕著であり、職場環境内でのいじめやハラスメントの現状が把握できていない。そのため、実際にあったとしても見えていないという、非常に不適切な状況にあると考えられる。同時に教育現場に対して、事業所としてのいじめ対策の取組なども不足していることが結果として浮き彫りになった。この事実は、今までのイジメに対する教育現場の対応と非常に似通っている。

このことから、考えられることは、いじめやハラスメントに対しての調査方法や対応方法についての知識が不足していることが想像される。事業者または団体として、適切な調査や対応を行える教育が必要である。

(2) ワークショップに対する考察

市内の多くの団体、事業者において、青少年に対するイベントなどは多く行われていることが、結果として分かった。青少年に対して、地域としてかかわりを持って行きたいという思いのあらわれと考えられる。

しかしながら、結果として出てきた事業の中身を精査すると、子どもが楽しいということを重要視しているイベントが多く、子どもの心理に直接訴求する内容の事業は不足している。

教育と地域が連携することが、今後の三鷹の教育方針として掲げられており、どのようなかかわり方をすべきなのかを、大人が学ぶ必要がある。そのためにも、三鷹の教育現場がどうなっているのかということ、実際に知ることに重要な意味があるものと考えられる。

(3) 全体を通じた考察

多くの団体、事業者からの声を聞いた上で、今後のいじめ、ハラスメントに対する正しい知識を大人が学ぶ場を提供する必要があると考える。また、地域が教育現場で何が行われているのか、どういう状況にあるのかを知る術を持つ必要性がある。本ワークショップのような学ぶ場、気づく場の提供といじめが実際にあるかもしれないことを前提に、地域で教育現場を見守ることができる、ゼロハラのようなシステムの構築が望まれていると考えられる。

今後、ゼロハラとしては、本ワークショップのような大人がいじめやハラスメントに対して、気づく、守ることができるような知識や情報の共有を行っていくことで、各団体、事業者が自分達で調査・対応をしていくことができるような人材の育成を行っていく。また、いじめを可視化していくことで、地域で見守ることができるアプリケーションの開発も今後急がれるものとする。

[9] 今後の計画

(1) 改修について

今回得られた操作性とデザイン・レイアウトについてのご指摘を基に、実際に改修を行ってまいります。

使いやすく、視認性が良いことを前提に、大人も子どもも親しみやすいものにしてまいります。ご意見の中から子ども向けに振り切った方が良いというものもありましたが、大人の方にも好感を持っていただけるようなものが望ましいと思っています。

(2) 不特定多数のモニタ

今回はコロナの影響で知り合いを中心にアンケート回答を頂きましたが、チラシ配布や SNS を用いた広報を行い、不特定多数の方からご意見を頂きたいと思えます。

また、実際の教育現場（もしくは限定されたグループ）の児童・生徒にモニタになっていただければと思っています。

(3) 事業目的に対して

事業目的
<ul style="list-style-type: none">・ いじめの認知件数を上げ、早期に取り組む契機をつくる・ 教育現場と地域が連携し、子どもの健全育成を見守る環境をつくる・ いじめ被害者が必要な情報にアクセスできるよう、web 上の情報整理をおこなう

ゼロはらの仕組みそのものがいじめの認知件数を上げるためのものですので、仕組みを完成させより多くの方に使用していただくことで、事業目的を達成します。

[10] その他（参考資料）

(1) ワークショップ募集チラシ

(2) ワークショップ開催時の PPT